



木島平小だより



平成26年11月28日(金)
第9号 木島平小学校

高社山にも雪が降り、日ごとに寒さを感じるようになりました。秋から冬へと移り変わってきていることを感じます。

子どもたちは、お米の収穫祭をして今年のお米のおいしさを一緒に味わったり、畑で収穫したサツマイモで焼き芋をしたりして、実りを喜び合って過ごしています。



読書旬間

本に親しむことは、自分が知らなかった新しい世界を知ることでもできれば、自分の見方や考え方を変えたり、伸ばしたりすることもできます。子どもたちが、本と向き合う、そして、本に親しむ時間をつくり出すことを願い、読書旬間の取組をしました。

姉妹学級やPTA父親母親委員会による読み聞かせが行われ、じっとお話に聞き入る子どもたちの姿が印象的でした。また、先生方がお薦めの本を紹介すると、図書館へ行ってその本を早速借りて読む子どもの姿がありました。本への親しみを感じ合えました。



子どもの世界をともに味わう

3年生が焼き芋をしたときのことで、できあがるまでの間に、落ち葉を集めて寝転がる子どもの姿がありました。「ここ、気持ちいい」「フワッ、フワッだよ」、厚みを帯びた落ち葉の感触を体で感じ、言葉で表現していました。子どもは、遊びの中で、自然や物などの感触や状態を知り、自分の接し方を身に付ける学びをしています。そんなときの、子どもの表情や仕草には柔らかさを感じます。

そんな子どもの世界と一緒に味わう担任の姿があり、ともに学び合う一端が存在しています。



なかよし月間

木島平小学校では、なかよし月間を設定し、友だちやものへの思いやり、優しい気持ちをもつことの大切さ、広い視野で見つめる心をもつことなどを大事にする意識を高める取組をしました。その取組の様子を紹介します。

学校人権同和教育研修会

「自分も友だちも大切にして、いじめや差別をしない・許さない実践力のある子どもを育てる」をテーマに、学校人権同和教育研修会を開催しました。

2年生の授業では、1つしかない柿の実を初めに見つけた者のものか、後から見つけ木から採った者のものかを考え合うことを通して、譲り合いや認め合いのあり方を学びました。子どもから、「半分にすればいいじゃん」という考えが出され、互いに気持ちよく生活する見方を大切にしている様子がうかがえました。



また、講師にリ・チュノさんを招き講演会を開きました。在日コリアンであるご自身のつらい経験を聞き、誰もが人間らしく生きる権利を意識し合える社会の大切さを学ぶ機会となりました。

P T A 講演会

19日のP T A講演会では、講師の矢口高士白馬南小学校教頭から、落語による人権教育の講演をしていただきました。矢口先生から、「顔や背の高さなど、みんなそれぞれ違っている。それでいいんだよ」「その人のことをよく知って認め合うことを大切に」と教えていただきました。



感想発表の場で、子どもや保護者から、「想像することを大切にし、相手を知る」「変は、見方を変えれば悪いイメージではなくなる」などが語られ、落語の登場人物の様子から人権感覚について学ぶことができました。

児童会活動による取組

なかよし月間の取組を児童会活動が支えてくれています。各委員会が、「全校のみんなが、元気な笑顔で楽しく生活できる」ためにできる活動を考え、なかよし郵便やあいさつジャンケン、縄跳びオリンピックなどに取り組みました。

あいさつジャンケンでは、昇降口前で「おはよう」のあいさつを交わすとともに、ジャンケンをしてシールによる花などの絵づくりをしました。日々のあいさつ交換によって、花びらなどに色ははっきりと現れていきました。



1～3年生児童への校長講話

「ありがとうの輪を広げよう」

11月は、なかよし月間ですね。なかよし月間では、児童会のみなさんが、あいさつジャンケンやなかよし給食、縄跳びオリンピックなどを計画してくれ、全校のみんなが、元気な笑顔で楽しく生活できるような学校にしようと取り組んでいます。

取組の1つに、なかよし郵便があります。昇降口前に、白いポストが置いてあります。

友だちと一緒に遊ぶと楽しいですね。また、友だちから助けってもらったりすると嬉しいですね。みなさんは、どんな「ありがとう」が見つけれられるでしょうか。このなかよし郵便を通して、「ありがとう」の輪が広がっていくことを期待しています。みんなの「ありがとう」を伝え合う郵便を楽しみにしています。



4～6年生児童への校長講話

「制作した人の想いを見ようとする」

秋は、読書や運動、芸術がじっくりと取り組みやすい季節です。みなさんは、今年も、絵や習字などに取り組み、素晴らしい作品を仕上げ、廊下などに展示されていますね。

16日の日曜日に「がっこうミュージアム」が開かれ、地域の方たちと、みなさんの作品を見合いました。参加された方が、「お金を払っても、こういった作品を見ることができません。とても貴重な機会です」と話していました。学校が、素敵な美術館になっていることを教えてもらいました。

みなさんは、校内に展示されている絵などの作品を見て、何を感じるでしょうか。友だちや他の学年の作品を見るとき、作品を作った「その人」「その時の思い」「その時の様子」を想像してみてください。そんな見方を大切にしてみると、校内に展示されている作品に対して、新たなワクワク感が湧いてくるかも知れません。

是非、友だちの作品をゆっくりと見てほしいと思います。

